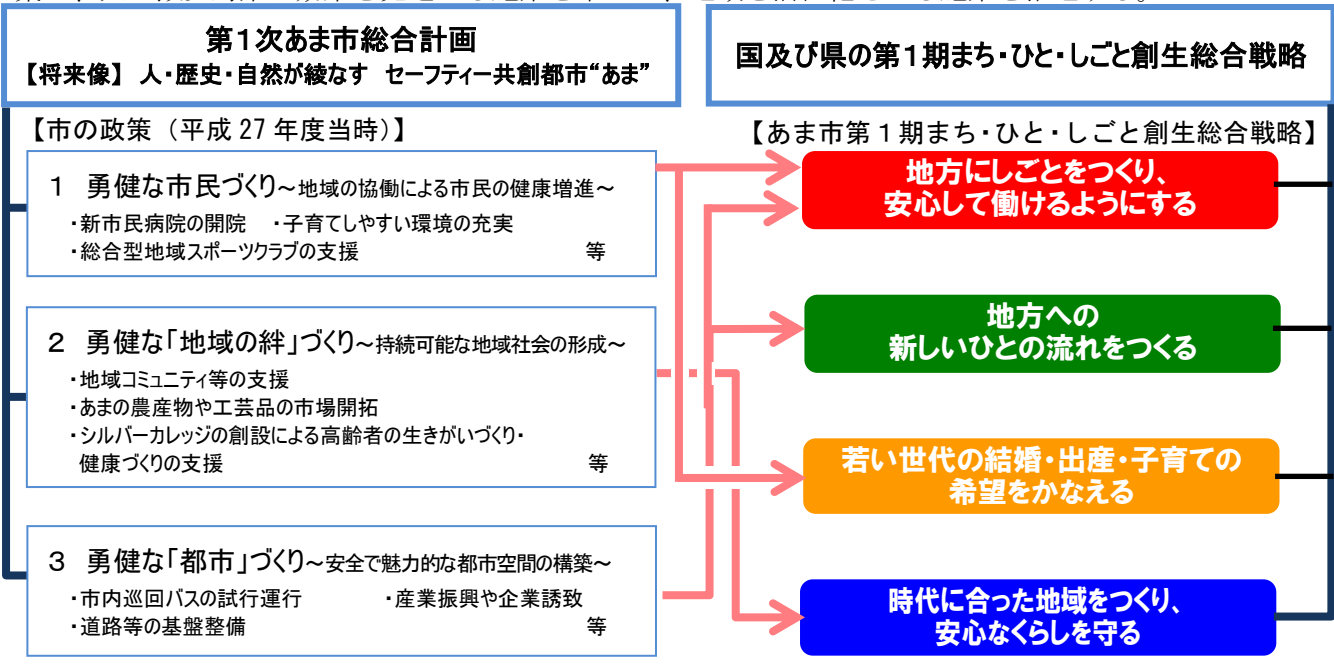


第2期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向けて

第1期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略と第2期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定

1. 第1期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略の役割

あま市総合計画の将来像や市の政策を踏まえつつ、国、県の第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略を勘案し、人口減少対策に効果を見込める施策を中心に、地域を活性化させる施策を推進する。



2. 第2期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定のねらい

令和元年度に第1期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略の終期を迎えることから、第2期（令和2～6年度）の同戦略を策定するものです。策定に向けては、これまでに実施してきた現戦略の効果を検証したうえで、引き続き市の総合計画や政策を踏まえつつ、現在策定中の国及び県の次期総合戦略を勘案していきます。さらに、近年の社会情勢や地域の変化を踏まえた見直しを行います。

- 現戦略の効果検証
 - ・現戦略の効果検証により、新たな課題の抽出
- 市の総合計画及び政策
 - ・市のまちづくりの基本方針を示す総合計画と、それに基づき実施されている市の政策との整合
- 国及び県の次期総合戦略を勘案
- 社会情勢の変化
 - ・女性活躍、働き方改革の推進
 - ・幼児教育・保育無償化の実施
 - ・外国人労働者の増加
 - ・5G、AI・RPA導入などによる担い手不足の解消
 - ・リニア中央新幹線整備に伴う大交流都市圏域の形成などが想定
- 地域の変化
 - ・新庁舎の整備効果を市域全体に波及
 - ・企業誘致への期待感の高まり
 - ・市制施行10周年を控え、市の一体感の高まり
 - ・地域コミュニティが活性化する一方、高齢化による担い手不足が影響

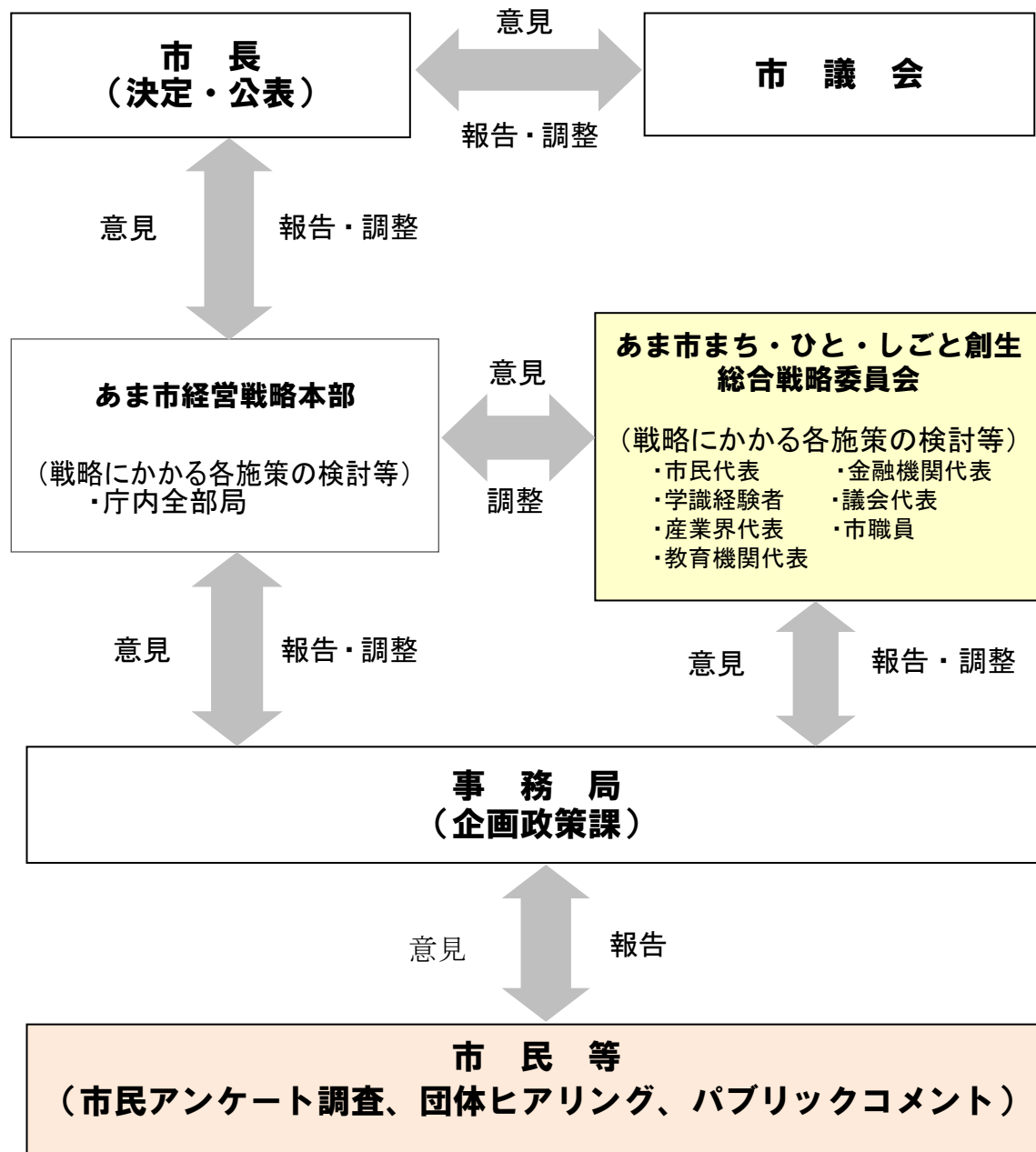
3. 第1期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略の構成と第2期戦略策定に関連する要素

第1次あま市総合計画	将来像	人・歴史・自然が綾なすセーフティー共創都市“あま”	
	基本理念	(1) 地域力を結集するパートナーシップのまちづくり (2) 人と人との絆を大切にたまちづくり (3) 交流と連携による魅力・活力あるまちづくり	
	施策の大綱	① 安全が確保され、安心で快適に暮らせるまち ② 心身ともに健康で、いきいきと暮らせるまち ③ 郷土に誇りと愛着が持てる、魅力あるまち ④ 自らの力で歩み続ける、活力のあるまち ⑤ 交流と連携による、一体感のあるまち	
		第1期戦略の基本目標と施策	第2期戦略へ新たに含める要素（例）下線部*
あま市総合計画	基本目標1 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする (ア) 商工業の振興 (イ) 地場産業の振興 (ウ) 農業の振興	基本目標1 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする	
ひと・しごと創生総合戦略	基本目標2 地方への新しいひとの流れをつくる (ア) シティプロモーションの推進 (イ) 観光の振興	基本目標2 地方への新しいひとの流れの強化 (新) 関係人口の創出・拡大	
	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる (ア) 安心して子どもを産み育てられる環境づくり (イ) 学校教育体制の整備	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる (新) 個々の希望をかなえる少子化対策	
	基本目標4 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守る (ア) 安全・安心なまちづくり (イ) 市民の生きがいと活力を高めるまちづくり (ウ) 都市基盤の整備 (エ) 鉄道利用の促進 (オ) 郷土に誇りと愛着が持てる、魅力あるまちづくり	基本目標4 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する (新) 未来技術の活用 (新) 都市のコンパクト化と地域交通ネットワークの形成 (新) スポーツ・健康まちづくり	
		基本目標（新） 地域基盤を担う人材・組織の育成 (新) 地方創生を担う組織による活躍の促進 (新) 高等学校・大学等における人材育成	
		基本目標（新） 誰もが活躍する社会の実現 (新) 全世代・全員活躍まちづくり (新) 地方創生に向けた多文化共生の実現	

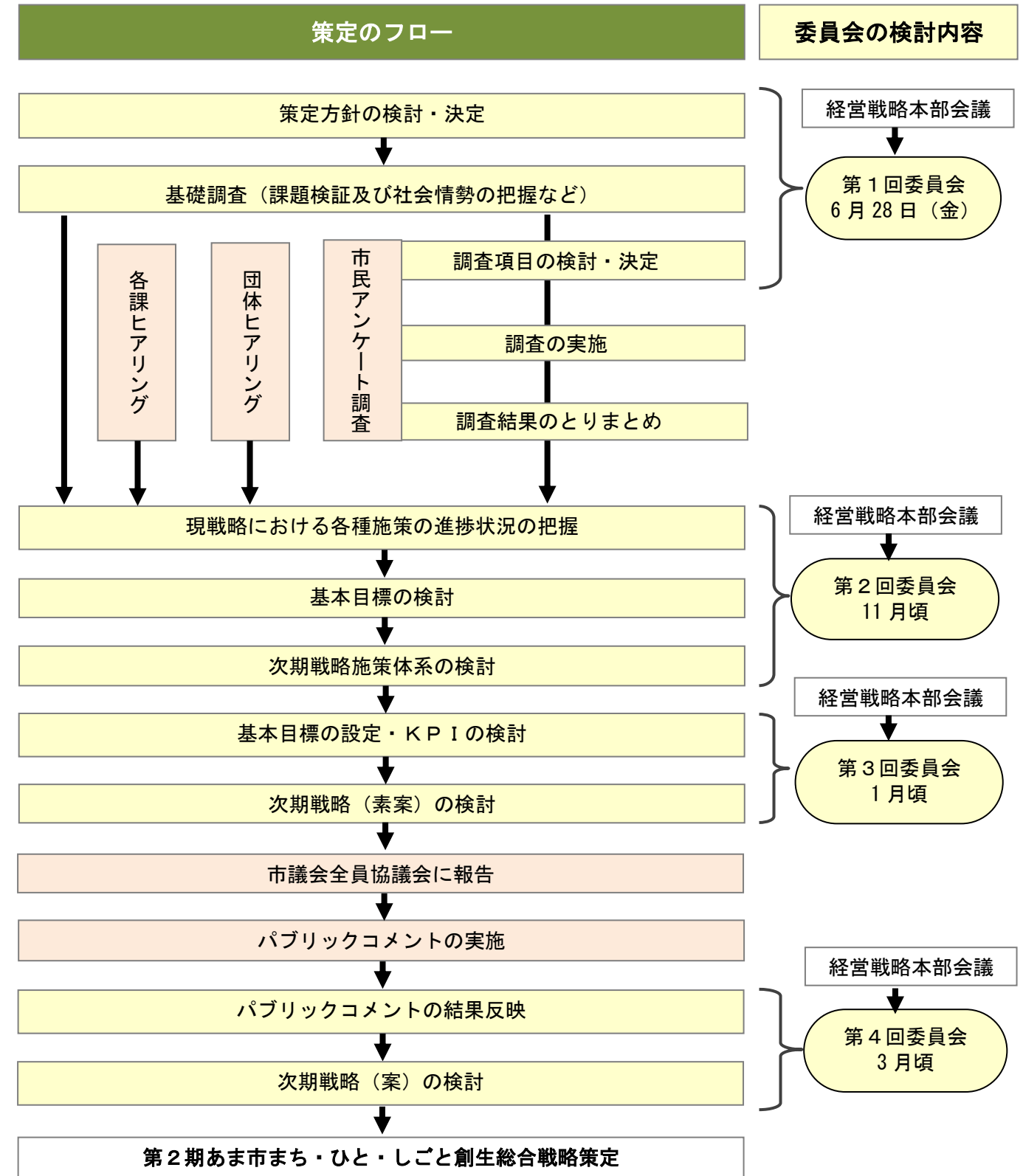
*国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に関する有識者会議中間とりまとめ報告書における「取組に対する具体的な提言」より引用。

検討の進め方(案)

1. 第2期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定体制



2. 第2期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定のフローと委員会の検討内容



第1期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略における課題検証

1. 基本目標及びKPIの進捗状況（平成30年度検証時）

基本目標1 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする

【数値目標】 「経済センサスより」

指標	現状値	進捗状況	目標値
市内従業員数	25,268人 (平成24年)	24,196人 (平成28年)	30,000人 (平成31年)

【KPI】(◎○△は平成30年度検証時の進捗状況を表します。)
市内の法人新規設立数(○)／七宝焼アートヴィレッジでの七宝焼教室参加者数(◎)／農業塾参加者による産地直売施設販売参加者数(△)

基本目標2 地方への新しいひとの流れをつくる

【数値目標】 「七宝焼アートヴィレッジ調べ」

指標	現状値	進捗状況	目標値
市外からの滞在・交流人口 (市外からの七宝焼教室参加者数)	5,472人 (平成26年度推計)	5,674人 (平成28年度推計)	6,300人 (平成31年度)
		6,176人 (平成29年度推計)	

【KPI】(◎○△は平成30年度検証時の進捗状況を表します。)
年間の転入者数(○)／スポーツの国際大会や全国大会の会場・練習場の招致件数(○)／七宝焼アートヴィレッジ来訪者数(○)／観光ボランティア数(○)

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

【数値目標】 「進捗状況はあま市独自算出」

指標	現状値	進捗状況	目標値
合計特殊出生率	1.50 (平成27年度)	1.38 (平成29年度)	1.59 (平成31年度)

【KPI】(◎○△は平成30年度検証時の進捗状況を表します。)
ファミリー・サポート・センター事業依頼会員数(○)及び利用回数(◎)／第三子保育料無料化対象児童数(△)／子どもが学校生活を楽しんでいると思っている保護者の割合(○)、同児童生徒の割合(○)／不登校児率(○)

基本目標4 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守る

【数値目標】 「進捗状況は平成28年度実施の市民意識調査結果「あま市の住みやすさについて」より」

指標	現状値	進捗状況	目標値
あま市への居留意向	73.0% (平成27年度)	73.3% (平成28年度)	85.0% (平成31年度)

【KPI】(◎○△は平成30年度検証時の進捗状況を表します。)
消防団員の充足率(△)／市内犯罪発生件数(◎)／シルバーカレッジ入学希望者割合(△)／健康マイレージ参加人数(◎)／区画整理事業等による転入者数(○)／鉄道利用者数(○)／「あまつり」来場者数(◎)／市民活動センター「あまテラス」登録団体数(○)

2. 課題（平成30年度までの委員会での意見、関係者ヒアリング内容等から抜粋）

基本目標1 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする

○数値目標の「市内従業員数」は減少傾向。

- 市内の法人新規設立数は、増加傾向。
- 市内の商工業者は、後継者不足と事業継承が課題。人材を結びつける仕組みが必要。
- 企画、商品及び人材など、ビジネスをマッチングするコーディネータ役が必要。
- 他市の事例にあるように高校生のアイデアをビジネスに活かす可能性を検討。
- 創業を支援した後の事業の継続が課題。次のステップにいけるよう行政とのタイアップが必要。
- 七宝焼は、伝統的工芸品としての認知度は向上しているが、当該職人の後継者が不足。
- 農業塾参加者は非常に熱心だが、高齢化により農作物の販売まで発展する人が少ない。
- 農業全般では、5年後が心配なほど後継者不足が深刻。

基本目標2 地方への新しいひとの流れをつくる

○数値目標の「市外からの滞在・交流人口」は増加傾向。

- スポーツの国際大会や練習場として使用できる大規模の施設がない。また、指導者が不足。
- 有名人にあま市をPRしてもらうなど、他市町村と差がつくシティプロモーションが必要。
- あま市にまず来て、知ってもらうことが大事で、いかに次の展開につなげていくかが課題。
- 七宝焼アートヴィレッジは、市の観光拠点として活性化を図る必要がある。観光施設が少ない本市での滞在時間をいかに長くするかが課題。また、本市を含めた広域の観光ルートが必要。
- 甚目寺観音については、駐車場が不足しており観光バスでのアクセスが不便。
- 観光ボランティアは、市内全域を案内できるスタッフが不足。先に市全体の観光プランが必要。
- リニア開業や外国人の増加、土地があるなど人口が増加する要因はあるが、それに備えた整備が必要。

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

○数値目標の「合計特殊出生率」は減少傾向と推計。

- ファミリー・サポート・センターは、利用回数も大事だが、安心・安全が第一であり、提供会員の確保が課題。
- 市民病院に産婦人科がなく、市内で出産できる施設がない。
- 市独自の不妊治療などの制度があると他市町村との差別化ができる。
- 乳幼児を抱えての離婚が多い傾向があり、離婚に至らないような支援と離婚後の再婚への支援が必要。
- 町内会加入率の低下が子育て家庭のコミュニケーション不足につながり、子育てに悩んでいる人に対して地域ぐるみの支援ができない。
- 今後は、地域の方が学校を支えていく仕組みが必要。
- 不登校対策は、新たな一人を出さないこと。また、義務教育終了後の切れ目のないサポートが必要。
- 外国人の子どもが増え、言葉がわからず授業についていけない事例が増えている。国籍も増えているため多言語のサポートが課題。

基本目標4 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守る

○数値目標の「あま市への居留意向」は、微増しているが目標値との乖離が大きい。

- 消防団の活動があまり知られていない。子どものころから消防・防災への関心を促す必要がある。また、消防団を地域ぐるみで支援する仕組みが必要。
- 市民の多くが利用している名鉄津島線を将来も維持できるよう、今できることから実施することが必要。
- 急速な高齢化社会に対応できる公共交通施策の検討が急務。
- 市の歴史、伝統産業、伝統芸能等を子どもたちに伝え、郷土への愛着を深めることが必要。
- 健康的な高齢者が地域で活躍できる仕組みが必要。
- 市民活動団体のコーディネータ役が必要。